

近森リハビリテーション病院 30周年

近森リハビリテーション病院 院長 和田 恵美子

リハビリテーション体制の黎明期

「救急病院における片麻痺患者の歩行およびADLの自立度と退院動向」という、昨年退職された松木秀行元リハ統括部長が筆頭著者、近森正幸理事長共著の1985年発表の論文があります。急性期からのリハビリテーションの必要性和片麻痺に合併症を伴うものにはより専門病院での治療の継続が望まれる、と結論づけられています。そのころの近森病院は理学療法士11名、作業療法士2名、言語聴覚士2名、ソーシャルワーカー4名と、その当時では潤沢なスタッフが活発に活動していました。

翌年の1986年にはリハビリテーション病院初代院長の石川誠先生が虎ノ門病院からリハビリテーション専門医として赴任されました。その年にはリハビリ訓練対象外の寝たきり患者や透析患者30名近くを一挙に転院指導し、増員したスタッフと家庭訪問、家庭復帰指導、退院後の往診などのフォロー体制もはじめています。

1989年12月1日開院

分院のベッド約30床を間借りしてスタートしたリハビリテーション科は、1988年7月から付添を全廃し基準看護を導入。仮設病棟（東館）81床に引越した10月には現副院長の中山衣代先生が着任。3年の準備期間で1989年12月1日に現在のオルソリハビリテーション病院の場所に近森リハビリテーション病院（145床）を開院。オープニングセレモニーで石川先生の「高知県から寝たきりをなくす」というスピーチを聴き、高校生だった私はリハ医になろうと考え1998年に就職しました。

その5月に老人保健施設いごっぱちを中核とした在宅総合ケアセンターが完成し、石川先生の構想したリハビリテーションセンター計画は完成を迎えました。

2000年には回復期リハビリテーション病棟が認可、2002年には増築棟が完成し当院は180床に拡大しました。しかし2007年在宅総合ケアセンターが閉鎖され、このときの喪

失感は大きなものでしたが、現在たくさん近森会の卒業生が県下の介護保険領域で活躍していることを思うと、介護保険領域を近森会で抱え込まなかったことは、英断だったと感じています。

病院内だけでなく 社会全体のシステムアップを

また初期の近森リハビリテーション病院は街中に立地し、急性期から介入し、徹底したチームアプローチで在宅生活に帰ることに重点をおき、日本の回復期リハビリテーションを変革してきました。

近年は機能障害への徹底したアプローチが行われ、チームアプローチも職種の専門性を生かしたものに進化してきています。摂食嚥下、義肢装具やロボット、自動車運転などの高次脳機能障害への専門性は向上し、2015年8月に新築移転したことで最新の機器を揃え、療養環境もよくなりました。

開院時の「病院の建物の中ばかりがシステムアップしても仕方がない。我々の住む社会全体がシステムアップしていかないと解決にならない」という石川先生の言葉にならない、今後も病院内だけでなく、社会とつながり医療・福祉の垣根を越え、障害をもつみなさまが「住み慣れた地域でよりよい生活を」おくれるように、たくさんの仲間と一緒に支えていきたいと考えています。

わだ えみこ





患者さんの笑顔にささえられて

回復期リハビリテーション看護師

近森オルソリハビリテーション病院 4階病棟

看護師 主任 野村 由香

看護師 澤田 智恵

突然の事故や転倒などによる受傷や疾患による手術を経てリハビリ病院への転院と、患者さんは自身を取り巻く環境の変化に戸惑いながら入院生活を送られています。

私たちの所属する回復期リハビリ

テーション病棟は、受傷・手術後のリハビリを通して在宅復帰や職場復帰を目指し生活行動を獲得していく場所となります。

回復期リハビリテーション看護師は患者さんが安全にリハビリを受けられるよう体調を整え、個別的なリハビリで獲得した能力を日常生活で最大限に発揮できるように支援しています。病棟生活では寝食分離やトイレでの排泄などで活動量をあげ、また自分で出来る事を1つでも増やし自信に繋げてもらうために必要な環境調整もおこなっています。

回復期病棟に入院される患者さんは、入院生活が長期になることで起こるストレスや残った障害と向き合っていかなければならない不安、復職や退院してからの生活・介護の

豆知識

◎オルソ【Ortho】

Orthopaedics は英語で整形外科の意味です。その接頭語 ortho は「正しい、まっすぐな、標準の」などの意味を持っています。

◎リハビリテーション【Rehabilitation】

Re= 再び

Habilis= 適する、人間にふさわしい

-ation= すること

何らかの障害があっても、その人らしく生活できるようにする

心配などたくさんの悩みを抱えています。その不安や悩みにじっくり時間をかけて寄り添い、患者さんとご家族の精神的サポートを行っていく、これも私たちの役割の1つです。こうした関わりで患者さんに笑顔が戻った時や話を聞いてもらえて良かったとの言葉をいただいた時、この資格を取得してよかったなあと思う瞬間であり、もっと自己研鑽しなければとも感じます。

今後は、患者さんへの関わりだけではなく、次を担うスタッフの育成にも携わっていきたいと思っています。 のむら ゆか/さわだ ちえ

11月の歳時記

ハイビスカス

近森病院外来センター

セブンイレブン 樋口智一さん



自称沖縄

生まれ、沖

縄育ちの僕が紹介する11月の花は、ハイビスカスです！この花を見ると沖縄の白い砂、青い海、空が回顧されます。

また、真っ赤に染まった太陽のように明るく、パワーのあるこの花を見ると、僕も元気を貰えます！

高知県にも南国土佐という代名詞があるように、沖縄とは違う高知県ならではの南国感を出していきたいです！

ひぐち ともかず



▼野村茂久馬展チラシ



野村茂久馬翁は土佐の交通王として明治、大正、昭和を果敢に生きた。翁の誕生日は明治2年12月28日、奈半利村（現奈半利町）に生まれる。令和元年がちょうど生誕150周年になるのを記念して「野村茂久馬展」が奈半利町の旧野村茂久馬邸や竹崎家住宅などで開催される。

この翁がなぜ当誌にと不思議に思う読者もいるだろうが、実は近森病院と大いに関係がある。現近森正幸理事長の父上である近森正博前理事長は、昭和16年5月に野村茂久馬の次女孝子と結婚する。そんな関係もあり、野村茂久馬は近森理事長の祖父に当たる。

野村茂久馬と近森病院

野村茂久馬翁は土佐の交通王として明治、大正、昭和を果敢に生きた。翁の誕生日は明治2年12月28日、奈半利村（現奈半利町）に生まれる。令和元年がちょうど生誕150周年になるのを記念して「野村茂久馬展」が奈半利町の旧野村茂久馬邸や竹崎家住宅などで開催される。

現在の近森病院本館A棟はもとは旧野村邸で近森病院発祥の地であった。翁が亡くなられたのが昭和35年2月。近森理事長がまだ小学6年生のころで、人間的にも体格的にもスケールの大きい祖父の姿を覚えている。

翁は多くの事業の経営だけでなく、将来のある若者や高知県出身の政治家などの支援も行っていた。外来センター南東角の二股の「クスノキ」はそんな昔の近森を知る唯一の生き証人である。

文責：「ひろっぱ」編集室



▲高知城公園自由の広場北東の野村茂久馬像

● 近森看護学校通信 37 ●

第4回 近森病院附属看護学校学園祭 「広げようちかもりの輪」

近森病院附属看護学校 学生自治会長 山崎 姫乃

9月27日(金)、28日(土)の両日、近森病院附属看護学校の第4回目の学園祭を盛大に開催しました。今回の学園祭は、「地域の人々との輪を広げたい」という思いから、テーマを「広げようちかもりの輪」としました。

1日目、午前中は高知警察署の方による講演会を開催し、午後からは、学校と教職委員のみの“前日祭”(ff イベント)を開催しました。開店していた模擬店でお腹を満たしながら、ffホールでは、男子「腕相撲大会」、女子「イントロクイズ」、全学年では「〇×クイズ」を行い、楽しみました。2日目は、模擬店、健康チェック、バザー、ステージイベント、山崎校長先生によるミニ講座、健康相談を行いました。ステージイベントのよさこい演舞ではffホールが満員になるほどのお客さんがい

て大変にぎわっていました。

また、ポスターを作成するときから、今年の学園祭は地域への広がり大切に、花をモチーフとしたやわらかい印象にしようと考えていました。学校内に花を飾り、2階フロアの華道展示にも力を入れました。高齢者の方々やお子さんにもたくさんご来場いただき、和やかな雰囲気なか学園祭を開催することができました。

当日は天候には恵まれなかったものの、多くの方々が来場してくださり、とても盛り上がった学園祭となりました。

学園祭開催にあたり、近森会グループ職員の皆さんには、バザーの品物の支援をいただき大変感謝しております。またお忙しいなか、ご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

やまさき ひめの



私の趣味

人生で一番泣いた二時間

近森病院 HCU 看護師 門田 航

出不精な私の趣味は家で映画を観ることです。初めて映画館で映画を観たのは、子供のころ、祖母に連れてってもらったポポロ東宝で「もののけ姫」を観たときでした。初めて観る大迫力の映画に興奮し、買ってもらったパンフレットを家に帰って穴が開くほど見つめていた記憶があります。

ポポロ東宝も廃館となった今では、家で映画を観漁っている私が、これまで見てきた映画の中でも一番泣いた映画を少し紹介したいと思

います。

その映画はSFでありながら宇宙を舞台に描かれる親子の絆が見どころです。広大未知の宇宙に翻弄され幾度となく試される親子を、涙を流しながら画面の前で見守り、クライマックスでは頭が痛くなるほど号泣しました。しかし、この映画は泣かせるだけではなく、難解なSF設定が盛り込まれているところも魅力の一つです。

時間、次元といった事象を科学的理論に基づき、圧倒的映像で再現さ



れているハードなSF映画であり、怖いけどロマンある宇宙にどんどん引き込まれていくのです。

SF好きな方、SFは苦手だけど泣いてスッキリしたい方は、ぜひハンカチを片手にご覧ください。映画のタイトルは「インターステラー」監督はクリストファー・ノーランド。同監督作品の「メメント」「インセプション」もお勧めです。

かどた わたる



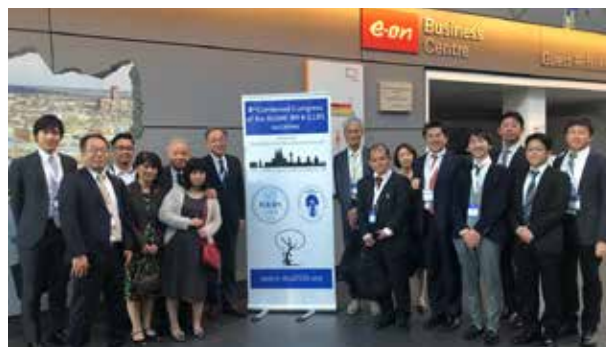
4th Combind Congress of the ASAMI-BR & ILLRS societies に参加

近森病院整形外科
部長 西井 幸信

8月末にイギリスのリバプールで開催された4th Combind Congress of the ASAMI-BR & ILLRS societies に参加いたしました。Ilizarov（イリザロフ）創外固定器の使用を中心とした組織再建（Ilizarov法）および骨延長、運動器再建の国際学会です。

過去にも参加したことのある学会ですが、今回は「Clinical results of fibular osteotomy using Ilizarov external fixator for the post-traumatic ankle disorder」の演題名で発表を行いました。外傷に伴う足関節の変形、距骨の骨軟骨障害等に対して共同演者の寺本司先生とともに行った腓骨の変形・短縮を矯正骨切りして治療

する方法で、足関節の骨性安定性に腓骨が重要な役割を果たしていることを伝える内容です。フロアーからは複数の質問があり、有意義な発表ができました。日本からは福島県立医科大学外傷学講座・総合南東北病院外傷センター



の松下教授、金沢大学の土屋教授をはじめ日本でIlizarov創外固定等を用いて運動器再建を行っている先生が参加、発表されていました。

4th Combined Congress of the ASAMI-BR & ILLRS societies に参加と運動器再建に携わる国内外の先生と交流を深めることができ、非常に有意義な学会活動を行うことができました。ありがとうございました。

にしい ゆきのぶ

第169回 地域医療講演会

2019年10月11日



医療法人徳洲会日高徳洲会病院
院長 井齋 偉矢先生

今年是在宅医療と漢方薬治療をテーマに、サイエンス漢方処方立場から井齋偉矢先生にご講演をいただいた。

30名近い参加者で講演終了後の議論も盛んに行われ、在宅医療では、患者さんだけではなく介護者（家族、医療スタッフ）のケアも必要であることを学んだ。

大便の処理はとても重労働である。桃核承気湯は程よい排便を促すため、オムツ交換が簡単になり介護者の負

漢方薬は在宅医療にとっても役立つ

近森病院総合診療科
部長 浅羽 宏一

担が軽減される。

介護をしていると腹が立つことがある。抑肝散は介護者の怒りを消してくれ、患者さんの睡眠薬にもなる。抑肝散で患者さんも介護者もニコニコ顔になれる。介護者が疲れたら補中益気湯で元気を取り戻す。

漢方薬は在宅医療に大いに役立つ。今回の講演は大変勉強になった。

あさば こういち

▼中央の井齋先生を囲んで。左から二人目筆者



成果を意識した仕事と職場改善をテーマに

人材育成委員会

3班に分かれてコメディカル管理者（師長、技士長、課長クラス）を

対象に「管理者基本研修（advance）」を開催しました。



90名の参加があり、各班では6名ずつ多職種でのグループディスカッションを通して「成果にフォーカスした管理や指導」、「サービス改善・職場の環境改善」、また「効果的な部門間連携」について改めて学び、たく



エデュネット協会の江藤かをる先生

さんの気づきを得ることができました。

長い間、近森を支えてくださった方が退職します。お疲れさまでした。



近森病院総合心療センター
准看護師 森脇 美和子さん

1968年4月から51年5カ月

長い間ほんとうにお世話になりました。私の看護師としての職歴は近森病院からでした。脳神経外科、外科、整形外科と病棟勤務後に精神科で働きました。「救急の近森」のなかで働くことの大変さを実感しながら、結婚や子育てを経験して、今は孫のお世話もできるようになっていることが不思議です。

新しくなる建物や技術に圧倒されながらも、スタッフにサポートされていた環境が、今日まで働けたのだと秋の風と共にゆっくり思っています。

もりわき みわこ



近森病院 整形外科外来
准看護師 浅沼 信子さん

1969年6月から49年

入職して49年と少し。外来は全部署まわりましたが一番長かったのは最後の整形外科でした。看護師人生を振り返り、時代の大きな変化を感じたのは付き添い看護から基準看護に変わった時と、パソコンで電子カルテを導入した時。職員旅行は楽しかった思い出の一つです。海外旅行に19回も行かせてもらいました。

苦しいこと楽しいこと、振り返ればいろいろあったように思います。これからはボランティア活動をしようと考えています。

あさぬま のぶこ



近森病院臨床工学部臨床工学技士
主任 下西 忠夫さん

1982年2月から37年7カ月

1978年に放射線科と内科外来の助手をしながら准看護学校に通い、卒業後2年間は別の病院で勤務。その後、近森病院手術室にて麻酔科の平野先生、岡崎先生のサポートをし、1989年から現任者講習を受け、臨床工学技士として勤務が始まりました。

思い返せばあっという間に過ぎたように思います。呼吸器などをアナログで調整し、ベローズ（手動のふいご）でポンプをしていた時代を懐かしく思います。これからは旅行なども楽しみながら自分のペースで過ごしたいと思っています。

長い間お世話になりました。これからも皆さんの若い力で近森会を盛り立ててください。

しもにし ただお

ちなみに、森脇さんと浅沼さんは共に脳神経外科外来で近森生活をスタートしたそう！



高知県骨髄移植推進協議会 副会長
近森病院血液内科 部長 上村 由樹

継続的な啓蒙活動を

2019年10月5日、高知県骨髄バンク推進協議会の主催により、第27回高知県骨髄移植講演会&ドナー登録会が、追手前高校 芸術ホールで開催されました。第一部では、実際の移植治療について、第二部では骨髄ドナーの方、移植を受けた患者さんにそれぞれ体験談をお話し頂きました。

ドナーとしての大役を果たせたことで大きく変わった人生観、健康を取り戻した患者さんの感謝の言葉は、会場で聴講する人達の胸を打ちました。一部と二部の間では、歌手の堀内佳さんが歌を提供して下さると同時に、自分の癌体験をお話し下さいました。

日本で非血縁者間の骨髄移植や末

梢血幹細胞移植を必要としている患者さんは、毎年少なくとも2,000人を数えま。現在、日本の骨髄・末梢血幹細胞提供者の登録者数は80万人程ですが、全ての患者さんが安全に移植を受けるためには、これからも新規の若いドナーを確保し続ける必要があります。最近では、県や自治体による助成金制度や、民間の保険会社によるドナー入院特約など、ドナーさんへの支援が行われています。

講演後には、聴講されていた看護学生さんがたくさんドナー登録に協力して下さいました。水泳の池江璃花子選手が急性白血病を患ったこと



で、骨髄移植への注目度が上がり、全国的にドナー登録者数の増加が見られてはいます。一時的な現象とならないよう、今後も啓蒙活動を継続していく所存です。

うえむら よしき

「乞！熱烈応援」

感謝を忘れずに



近森病院6階C病棟
看護師長 濱田 智恵

入職して十数年、たくさんの方々に支えられてきました。支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちと、管理者としての責任の重さを感じている日々です。

看護の専門性を高め、良質なチーム医療を実践できるよう、風通しのよい病棟を作り、スタッフ一人一人を尊重・信頼し、支えていけるよう頑張りたいと思います。

はまだ ちえ

ソフトボール大会

2019年10月20日

秋晴れの空の下、令和元年度ソフトボール大会開催！
精神科チーム（左）が優勝しました。おめでとう！



ハッスル研修医

三歩進んで三歩戻…らない、いや戻らせない！

初期研修医 杉村 和律

お世話になっております。研修医1年目の杉村です。

美味しい食べ物、美味しいお酒が好きな25歳です。幸いにも高知は食べ物も、お酒も美味しく、私の胃袋を優しく包み込んでくれます。

さて、早くも研修医生活は、半年以上が過ぎ去ってしまいました。もう間もなくすると後輩が入ってきて、さらに1年経てば後期研修がスタートすると考えると、悪寒戦慄が止まりません。



優秀な先輩方、コメディカルスタッフの方々に囲まれて、初めは慣れない研修医生活にも少しは慣れ、知識も徐々に増えてきました。

しかし、研修科が変わり時間が経つと「あれ？何やったかな？」といったことに最近よく遭遇します。その度に自分の理解の不足に呆れるばかりですが、何とか知識をつなぎとめようと、調べたり質問したりの日々を今は送っています。

三歩進んでも三歩は戻らない、二歩でとどめる（出来れば戻りたくない！）ために頑張っただけからの研修に向き合っていければなと思っています。

すぎむら かずのり

リレー エッセイ

仁淀川国際水切り大会

近森病院総合心療センター
4階病棟 看護師 戸田 裕可里



みなさん、水切りってご存知ですか？子供の頃に河原で石を水面に投げ、石がピョンピョンと跳ねて遠くまで投げるとい遊びをした事があるのではないのでしょうか。私は7年前に夕方のニュースで水切り大会という存在を知りました。小さい頃からスポーツが好きで、家の近くの川や海に泳ぎに行つては石を投げて水切りを楽しんでいた事を思い出しました。そこで、6年前から仁淀川国際水切り大会に参加しています。この大会は男性の部、女性の部、子供の部に分かれ、毎年200人ほどが参加して仁淀川橋の下の河原で行います。

私の成績ですが、女性の部で優勝



▲左端が筆者

2回、準優勝1回、3位1回です。ちなみに、初参加した2013年から2年連続優勝。3年連続優勝したら恥ずかしいと思い翌年は参加しませんでした。今年は準優勝でした。審査方法は、水切りの美しさ、飛距離、水切り回数の総合評価で順位を競います。

上位を目指すには、遠投力だけでなく石選びが最も重要です。平べたくて、持ちやすい、投げやすい石が良いと思います。そんな石を求めて、大会の1か月前から河原に行つて石選びが始まります。良い石が見つかり、まるで宝くじが当たったかのような気持ち？で一人、ニヤニヤしてしまいます。

高知で開催している国際大会にみなさんも是非参加してみませんか？2020年は、優勝を目指し河原を散策します。もし、良い石があれば持ってきてくれれば幸いです。

とだ ゆかり

リハビリテーション部
ユニフォームが変わりました

見た目はほぼ変わりませんが、ユニフォームが新しくなりました。背中部分がメッシュで蒸れない素材になり、ポケットもたくさんあって便利です。



「ひろっぱ」400号にあたって



当誌は今号で400号を迎えました。途中なんども合併号の危機がありましたが、休むことも合併号を出すこともなく、通算33年と4カ月、人生の半分近くをこの「ひろっぱ」と共に歩いてきました。創刊号から関わらせていただき、感無量の思いです。これからも近森会職員のみなさんのよき「ひろば」として、楽しい「ひろっぱ」でありますよう希っています。

編集担当・和田樹霖

ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

人の動き 敬称略

職員対象 第98回

チカモリ・シネマクラブ

2019年9月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,905人
新入院患者数	1,032人
退院患者数	995人

近森病院（急性期）

平均在院日数	13.38日
地域医療支援病院紹介率	85.70%
地域医療支援病院逆紹介率	287.62%
救急車搬入件数	561件
うち入院件数	317件
手術件数	458件
うち手術室実施	306件
うち全身麻酔件数	184件

● 2019年9月 県外出張件数 ●
件数 51件 延べ人数 94名

● おめでとう ●

編集室通信

秋といえば、『読書の秋』『スポーツの秋』『食欲の秋』などよく言われます。食べ物が美味しいこの季節、『食欲の秋』と言って、美味しいものをいろいろ食べ歩きたいところなのですが、年を重ねるごとに気になるあれこれ……。ここはやはり『スポーツの秋』でいくしかないかと、体重計を見つめて思う今日この頃。皆さんはどんな『○の秋』を過ごされますか？

(秋の○子)

調剤薬局から病院へ、ジャンプッ！

▼スタッフステーションで

調剤薬局から病院へ転職

四万十市の調剤薬局から近森病院へ移ったのは4年前。新卒で就職した調剤薬局では、数多い薬剤の種類を覚え、在宅の仕事も増えていた。地元のあれこれも分かってきた頃、視野を広げたいと思うようになった。病気のことをあまり知らなくても成り立ってしまう現状に、一種の焦りを感じるようになったのだ。

とはいえ、業務内容が大きく異なるため、一般には「ハードルが高い」と思われがちな調剤薬局から病院への転職。正和さんは、きつくなるかも知れないが、「同じ忙しい思いをするなら、病気そのものの勉強もできる病院で経験を積みたい」と思ったという。しかも、近森会薬剤師の「病棟常駐」には憧れもあった。患者さんの存在がずいぶん近くなるのだ。

救急で症例数も多い近森病院では、「調剤の経験はそこそこ積んできたつもり」でも、患者さんの持ち込む薬の種類の多さにも、症状の複雑さにも、今もって驚かされている。

ドクターの存在も近いため、その処方に過不足を相談できるのはやり甲斐に繋がるし、色々な職種がチームで患者さんをよくしているという実感を持てるのも「病院ならではの」と、喜びも感じているようだ。



▲形成外科チームの回診での一幕

得意の包丁さばき

整形外科、形成外科の医師たちと褥瘡ラウンドを行い、院内の勉強会の講師も任されるなど、委員会活動にも精を出している。チームで取り組む新鮮さ、また病院という臨床へのハードルが高かった分、馴染めてくると満足感も大きいのだろう。

趣味の釣りでも整形の先生方とは船に乗って出かけ、魚料理も「まあまあできる」と謙遜するが、自信あり(笑)と見た。刺身は包丁さばきで味が変わるから、回を重ね腕前も上がっているのだろう。

英語と化学

ところで正和さん、そもそもなぜ薬剤師になったのか。それは、いかにも彼らしいエピソードのようである。

「英語と化学、2科目だけで大学受験ができたため、です」。「ん??」。

土佐塾高校3年の夏まで、「ほとんどバスケットしかやってなかった」ような高校生活だったため、担任の先生から、「受験に間に合わせるため、英語と化学、2科目だけ頑張っ！」とハツパをかけられたのだ。そして、素直にそれに従った……。



▲鏡川の上流でキャンプ！



部長によると、「OK、NGの境界が一風変わっているためか、女性スタッフの地雷を踏み、ときどき怒られている。が、『“おさ兄”だから……』とあきらめてさえもらえる“いじられキャラ”(笑)が持ち味で、彼の懲りない面を温かく受け入れるやさしさも、周りのスタッフにはある！」のだとか。

スイッチ、オン

「人が好き」というのか、後輩の面倒見もいいし、出入り業者の皆さんとも仲良し。部署内の声がけも上手で、途中入職のため先輩にはなる年下のスタッフから指導されても、素直に受け入れているようす。

仲の良い後輩からは特に慕われていて、近所のホテルのお風呂に一緒に入ったり、「キャンプは嫌いだけど、尾崎さんが行くなら僕も行きたい！」と言わせるほどの魅力もある。

さらに、「スイッチが入った時にはすごく熱心にしっかり仕事をする」こともまた、筒井部長は強調する。

何ごとも無理せず、スイッチが入れば真っしぐらで頑張る底力も見せる。だから、やっぱり成長を楽しみに、今後にうんと期待したい。

「担任の先生はある意味、ボクの恩人。仕事を決めてくれました。あっけらかんと振り返り、しかもいま近森風土にすっかり溶け込んでいるような、この独特の幸せ感……。

筒井由佳薬剤

看護のこころをつなぐ CHNS 誓いのセレモニー



今年のテーマ「和」をキャンドルメッセージとして▲

山崎正博校長▼



5期生が一つにまとまる 成長を感じたセレモニー

近森病院附属看護学校
専任教員 小野 五月



10月11日、5期生による『誓いのセレモニー』を開催しました。5期生は社会人も多く、全体的に活気があり、学習面でも頑張るクラスです。反面、一人ひとり力は持っていますが、全体としてのまとまりはこれからという状態でした。

その5期生が誓いのセレモニーに向かって、リーダーを中心に協力しあって少しずつクラスがまとまっていく姿を間近で見ることが出来ました。

7月、セレモニーのオリエンテーションではその意義も分からない段階から一人ひとりがどのような看護師になりたいのか、誓う内容を考えました。9月に入りリーダー6名が中心となり、クラス全員で準備に取り組みました。全体の言葉、キャンドルの形づくり、はぐくむ会の準備など、リーダー学生の統率力の高さに驚かされました。

「みんなでセレモニーを成功させたい」「出席して下さる来賓の方や臨床の方、ご家族の方に自分の思いを伝えたい」という願いが、当日の満足できるセレモニーにつながったと思います。お忙しい中で臨席いただいた皆さま方、本当に有難うございました。

おの さつき

時にはぶつかりながらも 「和」をテーマに

近森病院附属看護学校
5期生 坂井 紀香

私たち5期生41名は、仲が良く一人ひとりの力も十分にあります。しかし、団結性に欠ける部分がありました。そこで、皆で和(輪)になって支え合いたいという思いと、また新たな年号の節目である令和の和から、和をテーマに準備してきました。短期間の中で協力し、時にはぶつかり合いましたが、その度に、クラスがまとまっていくのを感じました。

セレモニーを行うにあたり、協力し見守ってくれた先生方、アドバイスをくれた先輩方、そして私たちの想いを繋げてくれた仲間のおかげで、セレモニーを上げることができました。全て終了した後は、達成感と感動で胸がいっぱいでした。

「知識と技術を身につけ、自ら判断・行動できること」、「患者さんに真摯に向き合い、心身ともに支えられる存在になること」、「学び続ける姿勢を持ち、何事にも柔軟に対応できること」の三つの誓いを胸に、また先生方、先輩方、家族、多くの人に支えられていることに感謝し、5期生の仲間とともに、これからさらに団結し、支え合っていきたいと思います。

この度は、誓いのセレモニーにご参加いただき、ありがとうございました。

さかい のりか



▲学生役員：右から3人目が筆者